

ジョンソントウン再生プロジェクト

一米軍ハウスと創造的なコミュニティ、新たなライフスタイルが
織りなすまちづくり

正会員 磯野達雄 殿

正会員 渡辺 治 殿

これは7,500坪に及ぶ敷地に立ち並ぶ米軍ハウスを町ごと再生し、新しい命を吹き込んだ類い稀なりノベーションによるまちづくりの例である。「ジョンソントウン」と呼ばれるこの町は、1945年にジョンソン基地が作られたことから、GHQの求めに応じて1953年に建てられた24戸の米軍ハウスがベースとなり、1978年の基地返還以降日本人向けの賃貸住宅となった後、荒廃しスラム化した通称「磯野住宅」を「良い住宅地にしたい」という受賞者両氏の熱い思いにより見事に復活したものである。アメリカ文化を連想させる自由な雰囲気と商店を媒介とした活発なコミュニティの存在がこの町を生き生きとさせている。

この業績が高く評価されるのには、いくつかの大きな理由が考えられる。まず、米軍ハウスの持つ建築学的価値を保存しつつ、米軍ハウスの理念を現代的価値で再解釈した自ら「平成ハウス」と呼ぶ新しい住宅の形を提案し、同じ敷地に35棟建築したことである。そのことが古い住宅を保存するだけにとどまらず、戸数を増やすことによりビジネスとしても成立する日本でも稀な賃貸住宅からなるニュータウンの誕生に繋がったと言える。

また、単に住宅を供給するだけではなく、新しい時代のまちのコミュニティによるイベントの開催と情報発信により地域の観光資源となり得ていることも重要なポイントである。街外部からの集客は結果的に住宅地の価値を高め、通常より高めと思われる家賃も相対的にバランスするものとなり得る。新たな生活スタイルが文化の発信となり、経済的な価値を生み、この町のアクティビティをさらに向上させることになる。

さらに忘れてはならないのは、貸し主である(株)磯野商會がこの町の雰囲気と価値を維持するために、管理者としての熱き想いのもと、不断の努力を行っていることである。ジョンソントウンに相応しいライフスタイルの誘導や街並みを保つための住民への説明と協力依頼、これらの維持管理なくして現在のジョンソントウンは存在しないと考えられる。これも受賞者の業績として高く評価できるものである。

一方で、平成ハウスがバリアフリーに配慮されているにもかかわらず、その家賃の水準は、高齢者にとって敷居の高いものであるかもしれない。しかしながら、生き生きとしたこの町は高齢者のアクティビティを誘発し、高齢者支援の新たな枠組みを生む可能性を秘めているとも言えよう。

以上のように、ジョンソントウンの誕生からリノベーションとまちづくりまで、長年にわたる一連の業績は高く評価できる。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。